

第5学年国語科 学習指導案

平成25年12月5日(木) 5校時
5年1組(男子11名 女子12名 計23名) 本時3/8
授業者 池谷 康史

- 1 **単元名** 動物と人間のかかわりをえがいた物語を読もう
教材名 「大造じいさんとがん」(東京書籍5年下)

2 単元の目標

- テーマを決めて本を比べて読んで選ぶなど、進んでいろいろな本を読むことができる。
(関心・意欲・態度)
- 物語のおもしろさを推薦するために、登場人物の相互関係をとらえ、人物の心情を想像して読むことができる。
(C 読むこと(エ))
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。(C 読むこと(カ))
- 言葉や表現方法を選び、自分の選んだ本に用いられている表現の良さをリーフレットにまとめることができる。
(言 イ(ケ))

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第5学年及び第6学年「C 読むこと」の指導事項「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と、指導事項「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

「C 読むこと」の言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」を具体化した、「自分が選んだ関連するテーマの本のおもしろさを本の推薦リーフレットで友だちに伝える。」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる「リーフレット」による本の推薦は、本教材のテーマに関連ある本を自分で選び、その本の紹介文や心に残ったことを自分なりに表現し友だちに紹介するものである。登場人物の相互関係から人物像や役割をとらえたり、登場人物の行動や会話などについての優れた叙述に着目しながら読むことを通して、自分なりに物語のおもしろさや作品のテーマを読み、まとめる言語活動は、読書に対する興味・関心を広げ、図書室や図書館等を利用した豊かな読書活動を展開するきっかけになり、研究テーマの「主体的な児童の学び」につながると考えられる。

(2) 児童観

児童は、5年5月の「世界でいちばんやかましい音」では、物語の構成をとらえ、人物の変化を読み取り、そのことを生かして並行読書の中で自分のお気に入りの本の紹介文を書き、1～4年生に伝えた。10月の「注文の多い料理店」では、本文を読んでおもしろいと思ったところを話し合いながら、物語の構成や展開、表現方法(比喩、色彩語、オノマトペ、反復)などの物語を読む視点を確認しながら学習を進めた。また、並行読書を行う時間を毎時間、授業の中に設定し、宮沢賢治作品ならではのおもしろさを見つけながら、なぜおもしろいと感じたのか、視点を明確にして選んだ理由を具体的に書き表し、「トーク会」で自分が一番おもしろいと感じた宮沢賢治作品について交流し合った。

今年度の学力調査の結果を見ると、国語への関心・意欲は高く、「話す・聞く」「読む」「書く」領域ともに目標値を上回っている。しかし、これまでの指導で様々な視点から物語を読ませてきたが、場面についての描写や物語に描かれている世界など優れた叙述に対して想像豊かに読むことに弱さがあり、自分の考えをもつまでに至っていない児童もいる。

(3) 指導観

第一次の単元の導入では、図書支援員による動物と人間のかかわりをえがいた本のブックトークを聞くことで、本教材への興味・関心を高め、「本の推薦リーフレットを作り、推薦し合おう。」という学習のめあてをもつ。

第二次では、物語の展開や人物の性格から登場人物の相互関係の変化を読み取り、推薦リーフレットを作るために、一番心に残った場面を考えながら、「大造じいさんとがん」を読み、リーフレットのつくりを確かめていく。自分が推薦しようとしている作品ではどんな相互関係が描かれているか、一番心に残るところはどこか考えられるようにする。支援を要する児童については、文章中の言葉からどんなイメージを持ったのか、家庭学習で考えてくるように家庭学習と授業をリンクさせていく。

第三次では、並行読書してきたものの中から本教材に関連するテーマの本を選び、心に残ったことを中心に登場人物の相互関係や情景描写など自分が推薦する物語のおもしろさが伝わるようにリーフレットにまとめ、友だちに紹介する。また、深く読むことが苦手な児童に対しては、教師があらかじめ読んだ本を紹介したり、その児童が選んだ本をこちらが読んでおき、支援しながら取り組むようにする。

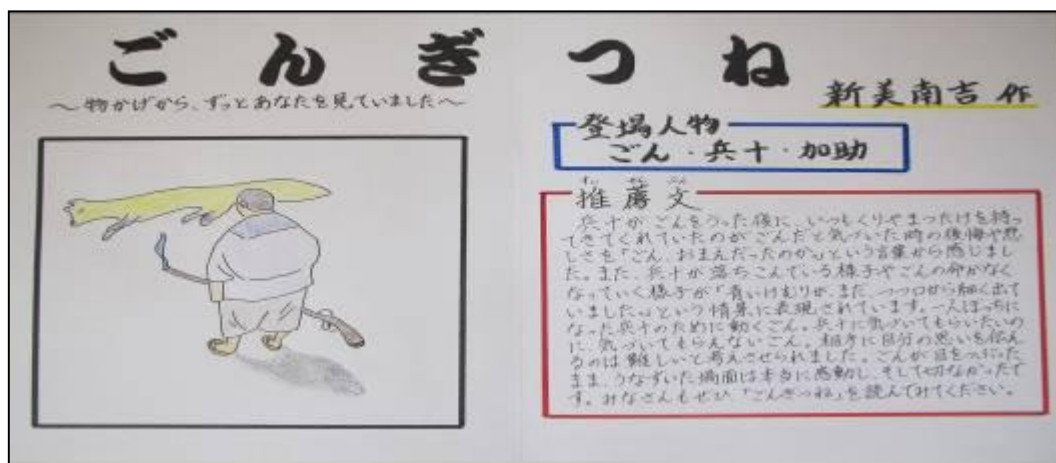
(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、与えられた指示に従って学習を進めるのみではなく、児童自身が単元を通した学ぶ目的をもち見通しをもって言語活動を進めていく展開にしていく必要がある。そこで、導入では、ブックトークを聞き、テーマに関連した本に興味をもち、教師自作の「推薦リーフレット」のモデルを示し、単元全体で付けた力や流れを示し、言語活動の見通しをもたせる。そして、第二次では、物語の中で最も心に残ったところを根拠をもって伝える言語活動を位置付け、主体的にテーマに迫った読みができるような単元構成とした。本教材だけでなく、自分が選んだ本でもここで付けた力を活用して、物語のおもしろさに気付いたり、いろいろな本を読み広げたりしていくことは、研究テーマ「主体的な児童の学び」につながると考えられる。また、友だちの紹介を聞いて、読んでみたいと思った本にすぐ手が伸ばせるように、並行読書で読んできた本を単元終了後も学級文庫の代わりに整えておくことで、豊かな読書活動にもつなげたい。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・テーマを決めて本を選び、進んでいろいろな本を読もうとしている。
読む能力	・物語のおもしろさを推薦するために、登場人物の相互関係をとらえ、人物の心情を想像して読んでいる。(エ) ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読んでいる。(カ)
言語についての 知識・理解・技能	・自分の選んだ本の文や文章を読み、文章に表れる工夫に気づいている。イ(ケ)

<言語活動のモデル「推薦リーフレット」>



5 単元構想図

単元を貫く言語活動

動物と人間の関わりに関連するテーマの本を読み、そのおもしろさを本の推薦リーフレットで友だちに伝える。

◇学習の流れ

第一次

- ブックトークを聞き、物語への興味を持つ。
- 全文の範読を聞き、リーフレットを作るという学習のめあてを持つ。

第二次

- 登場人物や大まかな内容を確認し、4つの場面をおさえる。
- 物語の中で最も心に残った場面について話し合う。
- 大造じいさんの変化について話し合う。

第三次

- 選んだ本を通読しながら、心に残ったことをみつける。
- 物語のおもしろさが伝わるように、最も心に残ったこと・挿絵などをリーフレットにまとめる。
- 完成した本のリーフレットを基に、選んだ本を学級内で紹介し合う。

並行読書

◇意識の流れ

【児童の実態】

優れた叙述に対するとらえが曖昧で、自分の考えをもつまで至っていない。

- ・物語って、変わるところがおもしろいな。
- ・中心人物は大造じいさんだ。
- ・リーフレットの中の紹介文のところは、「世界で一番やかましい音」で紹介文を書いたからできそうだな。

- ・今までに学習した「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの場面になるね。
- ・皆それぞれに心に残った場面が違うんだね。
- ・中心人物の心情が大きく変化したのは、なぜだろう。
- ・選んだ本でも中心人物の変化や心に残ったところはどこか、意識しながら読もう。

- ・動物と人間のかかわりを描いた本を読んで、おもしろさが伝わるようにリーフレットを書いてみよう。
- ・紹介してくれた本を今度、読んでみたいな。

単元で付けたい力

- ・物語のおもしろさをおさえながら読み、そのおもしろさをリーフレットに表現する力。
- ・1つのテーマに関連する本に興味をもって読み広げる力。

6 指導計画及び評価計画（全7時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	○ブックトークを聞き、物語への興味を持つ。 ○全文の範読を聞き、推薦リーフレットを作るという学習のめあてをもつ。	【関】ブックトークを楽しんで聞き、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 （発言・行動観察）
第二次	2	○大まかな内容を確認する。 ○本文を4つの部分に分ける。 ○物語の基本事項を確認する。	【読】大造じいさんの言葉や行動に着目して物語の内容の大体をつかみ、設定における残雪との関係をおさえながら読んでいる。 （発言、教材文、ワークシート）
	3 （本時） ・ 4	○物語の中で最も心に残った場面について話し合う。 ・登場人物の行動や会話 ○大造じいさんの気持ちが変わったわけを考える。 ・大造じいさんの残雪に対する気持ち、残雪を見送る大造じいさんの気持ちを考える。	【読】自分なりの根拠をもって、最も心に残った場面を選んでいる。 （ノート、発言） 【読】登場人物の行動や会話などについての優れた叙述に着目して、内面に描かれた心情を想像しながら読んでいる。 （ワークシート、発言）
第三次	5 ・ 6	○選んだ本を通読しながら、心に残ったことをみつける。 ○物語のおもしろさが伝わるように、最も心に残ったこと・挿絵などをリーフレットにまとめる。	【読】自分が推薦したい本を選び、根拠をもって心に残ったことをみつけている。 （行動観察・ノート） 【言】自分が推薦したい本を選び、その本に用いられている表現の工夫に気づいている。 （リーフレット）
	7	○完成した本の推薦リーフレットをもとに選んだ本を学級内で紹介し合う。	【関】本を読んで感じたことを推薦リーフレットを通して伝え合おうとしている。 （発言、国語日記）

7 学習の展開（全7時間）

第一次 1時間目（1／7）

- （1）目標 ブックトークを聞き、動物と人間のかかわりを描いた物語のリーフレットを作るという見通しをもつことができる。

（2）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 ブックトークを聞き、感想を交流し合う。	○動物と人間のかかわりを描いた物語の本を紹介する。 ☆ブックトークを楽しんで聞き、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関】（発言・行動観察）
「推薦リーフレット」って何かな？ 2 先生の書いたモデルを見て、「推薦リーフレット」を書くことを知る 3 単元の流れを知る。 4 全文の範読を聞く。	○一番心に残った場面、物語のおもしろさが相手に伝わるような「推薦リーフレット」のモデルを提示することで、学習活動の見通しをもたせ、意欲につなげる。 ○リーフレットに書く内容やリーフレットを書くための学習計画を確認する。 ○動物と人間のかかわりを描いた本を児童が自由に選んで読めるように環境整備をする。 ○リーフレットを書くことに興味をもてない児童を把握し、今後の学習活動で挿絵や文型の提示などの手立てを考える。
5 次時の学習について知る。 家庭学習 登場人物の確認と場面分けをしながら読んでくる。	○次時は、物語の大まかな内容をとらえることを知らせる。

第二次 1時間目（2／7）

（１）目標 登場人物の相互関係を押さえ、大まかな内容を読み取ることができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時のめあてを確認し、学習に関心をもつ。 物語の大まかな内容をとらえよう。	○物語の大まかな内容をとらえることを伝える。
2 場面分けを行い、登場人物を確認する。 3 大造じいさんと残雪の関係をおさえる。	○がんの写真を提示する。 ○「設定」「展開」「山場（クライマックス）」「結末」など、物語の基本事項を確認する。 ☆大造じいさんの言葉や行動に着目して物語の内容の大体をつかみ、設定における残雪との関係をおさえながら読んでいる。 【読】（発言・教材文・ワークシート） ※残雪が来るようになってから一羽のがんも獲れなくなったことに着目させながら、大造じいさんと残雪との関係をとらえさせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 一番心に残った場面はどこか、その場面はどんな様子か考えながら読んでくる。	○次時は、物語の中で最も心に残った場面はどこか、根拠をもって考えていくことを知らせる。

第二次 3時間目 (3／7) 本時

(1) 目標 最も心に残った場面について話し合うことができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
1 本時のめあてを確認し、学習に関心をもつ。	○自分の心に残った場面について考えることを伝える。
心に残った場面について話し合おう。	
2 物語の中で中心人物について心に残った場面はどこか、なぜそこを選んだのか、自分の考えをもつ。 ・ 個人思考 ・ ペア対話 ・ 全体交流	○なぜ、その場面を選んだのか根拠をもって考えさせる。 ○自分の考えと比較しながら、ペア対話を行い、相手の考えに対して簡単な感想を交換する。 ○登場人物の気持ちや行動をどう思うのか考えさせる。 ☆自分なりの根拠をもって、最も心に残った場面を選んでいる。 【読】(ノート・発言) ※自分が選んだ場面の文章や言葉に着目させる。
3 次時の学習について知る。 家庭学習 大造じいさんの気持ちが変わったのはなぜか考えながら読んでく る。	○次時は、大造じいさんの気持ちの変化について学習することを知る。
4 並行読書をする。 ・ 自分が読んでいる本で心に残った場面に付箋をつける。	○今日の学習をもとに、自分が選んだ本を読む。

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆根拠をもって心に残った場面を選んでいる。

- ・残雪がはやぶさと戦ったところが心に残りました。なぜかという、自分の命をかけて仲間のために戦う頭領らしい、堂々たる態度に感動したからです。

A 十分満足できる状況

◆根拠の中に物語の展開や登場人物の相互関係も入れて心に残った場面を選んでいる。

- ・大造じいさんが飛び去っていく残雪をはればれとした顔つきで見守っていたところが心に残りました。なぜかという、一羽もがんを取れなくなった原因の残雪のことを敵として見なくなったからです。自分の仲間を救おうと命をかけて戦った残雪をライバルとして認め、怪我を負った状態ではなく元気になった姿で堂々と戦おうとした大造じいさんの心に感動しました。

(4) 板書計画

「設定」「展開」での残雪に対する大造じいさんの気持ちは、黄色のチョークで書く。

教材文の部分は、白色のチョークで書く。

児童から出た心に残ったところの理由は、赤色のチョークで書く。

(5) 準備物

- ・大造じいさん、残雪の絵（掲示用）
- ・物語の構成カード（設定、展開、山場、結末）

第二次 2時間目（4／7）

（１）目標 大造じいさんの気持ちが変化したわけを考えることができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時のめあてを確認し、学習に関心をもつ。 大造じいさんの気持ちが変化したわけを考えよう。	○大造じいさんの気持ちの変化について考えることを伝える。
2 大造じいさんの気持ちが変わった理由について、自分の考えをもつ。 ・ 個人思考 ・ ペア対話 ・ 全体交流	○残雪に対するこれまでの大造じいさんの気持ちを想起させる。 ☆登場人物の行動や会話などについての優れた叙述に着目して、内面に描かれた心情を想像しながら読んでいる。 【読】（ワークシート・発言） ※大造じいさんの心を動かす要因になった残雪の行動や様子を表す言葉に着目させる。
3 次時の学習について知る。 家庭学習 選んだ本の中で最も心に残ったところはどこか、考えながら読んでくる。 4 並行読書をする。	○選んだ本の中で、心に残ったところはどこか、中心人物の気持ちの変化も合わせて考えていくことを知らせる。 ○今日の学習をもとに、自分が選んだ本を読む。

第三次 1・2時間目（5・6／7）

- （１）目標 動物と人間の関わりを描いた本を読み広げることができる。
友だちに紹介する本のおもしろさが伝わるようにリーフレットにまとめる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時のめあてを確認し、学習に関心をもつ。 物語のおもしろさが友だちに伝わるように、リーフレットにまとめよう。	○自分が選んだ本をリーフレットにまとめることを伝える。
2 選んだ本を通読し、最も心に残った場面を見つける。	○この単元の目的は読み広げなので、児童に選ばせる本は高学年相当のものに限らず、児童が紹介したい本であれば絵本でもよいことにする。
3 リーフレットにまとめる。	☆自分が推薦したい本を選び、根拠をもって心に残ったことをみつけている。 【読】（リーフレット） ○児童の実態に応じて、本をすべて読み終わらなくても、場面の紹介などについては随時書かせていく。 ○イラストやデザイン重視にならないよう、印象に残った言葉や表現方法を選び、相手が読んでみたくなるような文章を考えさせる。 ☆自分が推薦したい本を選び、その本に用いられている表現の工夫に気づいている。 【言】（リーフレット） ※リーフレットを書くのが難しい児童には、モデルを提示して、それらをまねて書いてみるよう助言する。
4 次時の学習について知る。 家庭学習 リーフレットを基に、物語のおもしろさが相手に伝わるように読んでくる。	○推薦リーフレットをもとに、友だちに選んだ本のおもしろさを伝えることを知らせる。

第三次 3時間目（7／7）

（１）目標 完成した本の推薦リーフレットを基に、選んだ本を紹介し合うことができる。

（２）展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時のめあてを確認し、学習に関心をもつ。 リーフレットを基に、選んだ本を紹介しよう。	○自分が作ったリーフレットを友だちに紹介することを伝える。
2 完成した本のリーフレットを基に、選んだ本を紹介する。 3 国語日記を書く。	○「本のあらすじ」「読んだ感想」などが分かりやすく興味を引くように書けていたか、「印象に残った場面」や「推薦の言葉」を自分の思いを中心にまとめていたかなどの観点で、工夫している点を中心に聞くようにさせる。 ☆本を読んで感じたことをリーフレットを通して伝え合おうとしている。 【関】（発言、国語日記） ※リーフレットに書いてあることを基に、伝え方と聞き方の観点をはっきりとさせ、事前に知らせておく。
4 単元を振り返り、学習のまとめをする。	○完成したリーフレットは、今後の読書活動の広がりにつながるよう、コーナーを設けてしばらく展示しておく。